

傾聴ボランティア事業の取り組みを

小川 龍美 議員(公)

町長 社協と協議していききたい



質問 高齢化社会を迎え、一人暮らしや高齢者のみの世帯が増える中、悩みや寂しさを抱えるお年寄りが増えている。元気な高齢者がカウンセリングの基本を学び、お年寄りの話し相手として相談に乗る傾聴ボランティアの事業は、高齢者の心のケアと、ボランティア自身の生きがいの両面の効果が期待できる。

そこで町は、シニア・ピア・カウンセラー《解説》を養成し、傾聴ボランティアとして派遣する事業に取り組むべきと考え、町長の所見を伺う。



高齢者の話を聞く宅老所の職員

習を受け、カウンセリング技術を習得しなければならず容易ではない。

しかし、在宅高齢者の支援は、推進したいと考えており、傾聴ボランティアについては、社会福祉協議会等と協議していききたい。

ミニ解説

シニア・ピア・カウンセラー
高齢者で、悩みを持つ高齢者の話し相手として相談のために資格を得た人。

こんな質問もありました
中学生に能率鑑賞を。教育長 学力向上が最重要。現状では困難。

行財政を効率的に運営するため合併の検討を

尾作 武夫 議員(自)

町長 現在は検討すべき時期ではない



質問 今、国、地方の財政状況の厳しい中、少子高齢化が進んでいる。今後ますます福祉、サービスを受ける人が増え、一方で税を負担する人が減る時代がやってくる。この状況の中、「今は豊かだからいい」また「今はこれで運営していけるから考えなくていい」などというのではなく、将来を見据えた行政経営のあり方を検討すべきだと思う。行財政の効率的な運営で一番いい形が合併である。町長の所見を伺う。



町無形民俗文化財に指定されている石畑重松囃子連の練習風景

町長 町は積極的に行政改革に取り組み、財政の健全性では全国的に高い評価を得ている。合併の効果により財政的メリットが考えられるが、町の歴史や、風情、人情など、数字には表れないものも大切である。

今後は少子高齢化が進む中で、行政サービスの水準を維持する上からも合併を意識する必要があることは認識している。しかし、現在は検討すべき時期ではないと考えている。

空白(総隊司令部) 移駐に伴う支援策を

高橋 征夫 議員(溪)

町長 基地内外に300戸必要との説明



質問 米軍再編協議を終え、再編実施のための日米ロードマップが示された。町民の関心事である横田基地は、米軍・自衛隊共同使用となり、司令部移駐は、2010年に決定された。2月11日、町は歴史的・地理的に厳しい状況の中で、賞賛すべき適時適切な状況判断で、他自治体に先んじて受入れを概ね容認した。部隊移駐に伴うこの時期に、官舎等の受け入れを先行性もって調整を図り、支援策を講ずべきと考えるが、町長の所見を伺う。

町長 自衛隊移駐に伴い、隊員および家族の宿舎が300戸程度必要との説明は受けている。詳細については日米間で協議中であり具体的には答えられる段階ではない。仮に宿舎等が建設されると、税収、防災など期待できる。しかし、一方で小中学校の受け入れ等の負担なども考えられる。いずれにしても国が町内へ宿舎等を建設する意向を示した場合、議員の意見も聞きながら対応していききたい。



建設中の自衛隊宿舎(立川市内)

こんな質問もありました
町施設の安全管理体制は。教育長 集中的な点検も必要。

バリアフリー住宅奨励について

町長 19年度実施に向け調査・研究

小池 信一郎 議員(瑞)



質問 身体に障害がなくとも高齢になると屋内の段差が障害となり、浴室やトイレの造りが介護者にとって使いづらい。こうしたことから現在、バリアフリー住宅の新築、改造が増加している。これからは在宅介護も増えることが予測され、わが町においても積極的な行政の支援が必要と考える。人に優しいバリアフリーの家造りとして、新築、改造奨励金制度の創設は高齢化社会に向けて有効な施策と思うが町長の所見を伺う。

町長 町では、介護保険制度の中で、手すりの取り付け、段差解消、スロープの



手すりが設置された家庭用トイレ

設置などの住宅改修に対して改修費を給付している。これは要支援・要介護認定者を対象としたものである。今年から、敬老金を節目の贈呈に改定したが、その際削減した予算は高齢者福祉に使うことにしている。そこで、介護認定を受けていない方に住宅改修費を給付する制度について、19年度の実施を目指して、現在調査・研究を進めている。

こんな質問もありました
定年退職者を地域活性化に生かしては。町長 地域参加を推進したい。